

海外安全対策情報（2018年7月～9月）

在サンクトペテルブルク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

サンクトペテルブルク市及びレニングラード州の社会・治安情勢は、ロシア国内全体から見れば比較的安定しています。他方、本年6月から7月にかけて行われたFIFAワールドカップも大きな混乱なく終わったものの、緊張する国際情勢や変化の多い国内情勢もあり、今後の情勢の変化に注意を払う必要があります。

本年1月28日及び5月5日には、大統領に反対する団体による大規模デモが起り、参加者が治安当局に逮捕されるなど、現場が騒然となる事態も発生しています。無用なトラブルを回避するためにもこれらの集会やデモには近づかず、万一遭遇した場合には巻き込まれないよう直ちに現場から離れるようにしてください。

以前と比較して発生は少なくなったものの、ナショナリズムの高揚を背景とした移民族排斥主義的な風潮も一部にまだ見受けられます。犯罪の対象は、主に中央アジアや北コーカサス等の出身者ですが、邦人の皆様も引き続き警戒が必要と思われます。

近年、世界の様々な地域において、特に繁華街、観光地、公共交通機関などのソフトターゲットに対し、イスラム過激派組織によるテロやこれらの主張に影響を受けた者によるテロ等が発生しています。昨年4月3日、サンクトペテルブルク地下鉄において爆発事件が発生し、死傷者が出ました。また、同12月27日、市内スーパーマーケットにおいて簡易手製爆弾による爆発事件が発生し、10数人が負傷しています。当地治安機関によるテロ対策や警戒活動が強化されており、現時点で具体的な情報はないものの、今後テロ等が発生する懸念もあることから、引き続き十分に注意を払う必要があります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（別添「安全対策上の参考事件（2018年7月～9月）」参照）

（1）一般犯罪情勢

サンクトペテルブルク市内中心部は世界遺産に指定され、外国人観光客が多く訪れることから、年間を通し観光客を狙ったスリ・強盗等が発生しています。観光シーズンには、バスや地下鉄等の公共交通機関内、エルミタージュ美術館等の有名観光地やネフスキー大通り等で観光客を狙った被害の増加が予想されますので、邦人の皆様も十分にご注意下さい。

特に、路上歩行時、公共交通機関への乗降時、観光地や各種商業施設等からの出入り時などに、複数人に取り囲まれて貴重品類を盗まれたり、強奪されたりするなど、邦人が被害に遭うスリ・強盗・ひったくり等の事例も見うけられますので注意が必要です。常に周囲の状況に目を配るなど、警戒心を持って油断なく行動するよう心掛けて下さい。

被害に共通する注意点として、犯人は、貴重品類の出し入れ時に収納場所を確認したり、

貴重品があると思われる場所に狙いを定めて集団で身動きを封じたり、注意散漫の隙をうかがったり、声をかけて注意をそらせるなどして犯行に及んでいるようです。

(2) 一般犯罪統計

国家統計庁の発表によれば、2018年1月から9月までのサンクトペテルブルク市における犯罪認知総件数は38,039件（前年同期比101.8%）で、内訳は以下のとおりです（注：括弧内は前年同期比）。

殺人及び同未遂	144件（96.0%）
重度傷害	322件（95.5%）
強姦及び同未遂	54件（145.9%）
強盗	298件（107.2%）
略奪	1,298件（91.3%）
窃盗	13,939件（103.1%）
詐欺	2,602件（110.9%）
粗暴行為	74件（107.2%）
麻薬不法取引	8,579件（87.7%）

(3) 邦人被害事件

今期、当館が認知した邦人被害事件は、窃盗被害17件です。

当地では、外国人観光客を狙ったすり被害が多く発生しています。

特に、バッグ類を所持していると狙われ易く、これらに貴重品類をまとめておくと被害が大きくなるので注意が必要です。

(4) 邦人以外の被害事件

刃物や外傷性けん銃などの銃器を使用した強盗事件が、昼夜時間帯を問わず市内中心部の一般的な商店等においても発生していることから、これら事件に遭遇する可能性も排除されません。また、刃物や銃器等の武器の押収も日常的に報じられ、犯人に抵抗して死傷する事件もあります。争い事を含め何らかの事件に遭遇した際には、抵抗や深追いなどは危険ですので絶対にせず、生命・身体を守ることを最優先にして下さい。

3 テロ・爆発事件発生状況

昨年4月3日、サンクトペテルブルク地下鉄で爆発事件が発生し、死傷者が出ました（昨年4月12日現在で犯人を含め15名が死亡）。また、同年12月27日、市内スーパーマーケットにおいて簡易手製爆弾による爆発事件が発生し、10数人が負傷しています。現在、それぞれの事件とも事件背景の解明に向けた捜査が継続中です。

なお、市内全域において、ショッピングセンター等の各種商業施設、空港や地下鉄等の公共交通機関、学校等の各種公共施設、集合住宅等に対し爆発物に関する虚偽通報事件が発生している上、不審物に市民が敏感になっていることもあって通報が相次ぎ、長時間に及ぶ治安機関による検査で市民の生活にも影響が及んでいます。報道によれば、地下鉄爆

発事件以後、そのような通報が相次いでいるようですので引き続きご注意ください。

4 邦人の誘拐・脅迫及び日本企業を対象とした事件

今期、当館で邦人を対象とした誘拐事件及び日本企業を対象とした事件は認知していません。

誘拐等の事件の防犯対策としては、住居の警備対策をはじめ、出勤・帰宅時を含む移動時の安全対策を確立することが最も重要であり、安全のための三原則「目立たない」「行動をパターン化しない」「用心を怠らない」を徹底し、隙を見せないことが肝要です。

なお、当地は、18世紀初頭、世界で最初に公的に日本語教育が始まった町で、多くの優れた日本専門家を輩出し、日本文化、日本製品等への関心は高く、対日感情は良好です。

5 その他参考（テロ等に対する安全対策）

無差別テロの特徴として、少ない労力で最大の被害を狙うため、人が大勢集まる場所（公共交通機関施設、観光地、劇場、レストラン等）や時間（ラッシュ時、イベント開催時、週末の夜、休日の日中等）を狙います。

被害に遭わないための一般的配慮事項として、常日頃から治安情報にも目を向け、危険な場所にはなるべく近づかず、滞在時間もできるだけ短くし、周囲の不審者（不自然な厚着、挙動不審で目立つ等）や不審物件（所有者不明な荷物、放置物等）に注意を払い、近づかない、速やかにその場を離れるなどの用心を怠らないことが必要です。

また、実際に、テロ・爆発事件に遭遇した場合に被害を最小限に抑えるため、例えば次の諸点を心がけることをお勧めします。

<予防措置>

- 退避ルートを確認する。
- 隠れられる場所を確認する。
- 常に周囲の状況に注意を払い、不審者や不審物を見かけたら速やかにその場を離れる。

<対処法>

- その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。
- 頑丈なもの陰に隠れる。
- 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。